



新美南吉生誕100年通信

NIIMI NANKICHI 100th Anniversary Year

新美南吉生誕100年まで3年5か月

発行／新美南吉生誕100年記念事業検討委員会 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 新美南吉記念館内 TEL.0569-26-4888



童話「ごんぎつね」の作者、
新美南吉は、
平成25年に生誕百年を迎えます。
故郷の愛知県半田市では、
記念事業に向けた取り組みが
動き出しました。

「ごんぎつね」の舞台、矢勝川堤に咲く200万本の彼岸花



新美南吉生誕百年記念事業

記念事業の具体的な計画は、まだこれから決まっています。平成二十五年七月に行う生誕祭に、市民企画型の事業を盛り込んでいくほか、年間を通して、行事を行っていただけの団体を募集し、支援もしていく予定です。ぜひ、皆様と一緒に生誕百年事業を成功させていきたいと考えています。

- こんな記念事業を目指します
- 次世代に伝えるための「子ども参加型」の事業
- 年間を通じて行われる市民が主体となった事業
- 作品の舞台や風景を保存・整備する事業



▲生誕90年に行われた合唱オペラ

主要事業スケジュール 平成25(2013)年

(時期や内容は変更される可能性があります)

- 1月5日(土)
生誕100年開幕記念式典(都道府県別一番乗り競争スタート)
- 3月22日(金)※南吉の命日
没後70年記念法要(法要・朗読・邦楽演奏)
- 7月13日(土)～10月14日(祝)
記念特別展「南吉を生んだ知多、南吉が描いた知多」(仮称)
- 7月27日(土)・28日(日)
生誕祭(各種ステージイベント・作品展等)
- 7月30日(火)※南吉の誕生日
生誕祭(記念式典・記念碑除幕等)
- 9月下旬～10月初旬
「童話の村 秋まつり」
(200万本の彼岸花と南吉関連イベント)

このほか、記念シンポジウム(時期未定)、市内小中学校における学習発表、市民主催事業、企業協賛事業など、年間を通じて行う予定です。

こちら記念事業検討委員会です

現在、新美南吉の生誕百年事業については、平成二十年十一月に発足した「新美南吉生誕百年記念事業検討委員会」を中心に内容の検討やPRを行っています。

委員長には、新美南吉事業推進協議会「ごんぎつねの会」会長の新美勝彦氏が就任しました。その他の委員や構成団体は次の通りです。

- ・半田商工会議所
 - ・(社)半田青年会議所
 - ・半田市観光協会
 - ・新美南吉顕彰会
 - ・ごんぎつねの会
 - ・半田市国語科教育部会
 - ・矢勝川の環境を守る会
 - ・半田市商工観光課
 - ・半田市教育長
 - ・半田市教育部長
 - ・新美南吉記念館長
- 事務局は、新美南吉顕彰会と新美南吉記念館が務めています。これまでにホームページを作成し、公式ロゴマークを制定したほか、青森県で昨年行われた太宰治生誕百年事業の視察も行った。

いました。

とくにロゴマークは、検討委員会で話し合った結果、生誕百年のPRも兼ねて公募で選ぶこととなり、全国に募集をした結果、一五八三点もの応募がありました。制定されたロゴマークは、団体や企業でも申請していただければ使用することができます(四頁参照)。

今後は、新美南吉を紹介するパネル展示セットの作成と貸出、公式キャラクターの募集、プレ行事の開催、市民企画事業の募集などを行いながら、早期の実行委員会への移行を目指していきます。



▶委員によるロゴマーク審査

いつ生まれたの？

大正二（一九一三）年七月三十日に生まれました。かに座で五年です。同じ年に生まれた人に、国語学者の金田一春彦、俳優の森繁久彌、写真家のロバート・キヤパがいます。

どんな家庭に育ったの？

畳屋を営む渡辺多蔵と、糸の次男（長男は早逝）に生まれました。四歳の時に父が病気で亡くなり、継母の志んに育てられます。父は商売熱心で儉約家、継母は社交的な性格でした。弟の益吉とは五歳離れ、母が違いましたが、とても仲の良い兄弟でした。

ところが、南吉が八歳の時、生母り糸の実家の新美家に養子に出されてしまいます。半年足らずで渡辺家に帰されますが、この時に味わった寂しさは生涯消せないものになりました。

職業は？

職業は童話作家！とい

たいところですが、生前はあまり有名ではなかったの

で、原稿料だけでは生活できませんでした。小学校の代用教員や飼料会社の社員もしましたが、最後は、安城の高等女学校で、英語の先生をしていました。

文学の先生は？

詩人の北原白秋に師事しました。同じ白秋門下の兄

にいみなんきち

新美南吉ってどんな人？

弟子、異聖歌（童謡「たきび」の作詞者）からもたくさんのお話を教わっています。聖歌は先生としてだけではなく、まるで家族のように付き合ひ、いつも南吉を助けてくれました。

ニックネームは？

本名の正八しょうはちから「シヨツパ」、ペンネームの南吉から「ナンキー」「ナンちゃん」と呼ばれていました。

代表作は？

「おじいさんのランプ」「手袋を買いに」など有名な作品はたくさんありますが、やはり一番よく読まれているのは「ごんぎつね」です。昭和三十一年から小学四年生の国語教科書に採用され、昭和五十五年以降はすべての教科書会社が採用しています。これまでに六千万人が学校で習ったと

いわれる教科書界の超ベストセラー。たくさんのお絵本にもなり、海外でも出版されています。

好きな作家は？

アンデルセン、フィリップ、チェーホフなどが好きでした。日本人では宮沢賢治を尊敬していて、自分の最初の童話集を教え子に贈るときに賢治の詩を書き入れるほどでした。

ペンネーム「南吉」の由来は？

はつきりはわかりませんが、「南」（なん）・訓読みすれば「みなみ」は、初恋の女性の木本威子の「みな」からとったのではないかと、といわれています。



好きな食べ物？

南吉は大の甘党。中村屋のカステラや虎屋の羊羹をぺろりとたいらげました。女学校で宿直をしていた夜には、急に食べたくなって、雪の中をスリッパ履きでドラ焼きを買いに行ったこともありました。

好きな女性のタイプは？

南吉は、幼なじみの木本威子、同僚教師の山田梅子、「ごんぎつね」に登場する殿様の子孫で女医の中山ちゑと交際していますが、いずれも芯の強い女性でした。日記にも「僕は自分が弱いせいか性格のなかに何処か強いところがあるとそこに魅力を感じるらしい。」と書いています。強い女性を求めるのは、母を早くに亡くしたせいでしょうか。

新美南吉（児童文学者）

大正二年七月、愛知県知多郡半田町（現・半田市）岩滑いわなべに生まれる。本名正八。中学時代から文学を志し、卒業後、小学校で代用教員をしながら『赤い鳥』に投稿。「ごん狐」が掲載される。その後、東京外国語学校英語部に学ぶが、咯血して帰郷。安城高等女学校の教諭となり、昭和十七年に第一童話集『おぢいさんのランプ』を出版。翌年三月、結核により死去。生前は無名に近かったが、死後、評価が高まる。

みんなでPR！生誕100年ロゴマークが使用できます。

昨年制定した「新美南吉生誕100年公式ロゴマーク」は、半田市などが行う公式行事や広報活動だけでなく、生誕100年事業に賛同して下さる一般の事業者や団体の方でも、申請していただければ無料で使用することができます。ぜひご利用ください。

使用許可条件

対象事業	ロゴを使用したグッズを製作、販売（配布）する事業 市内外で実施するイベント、施設、商店街、グッズ等のPRを行う事業
使用範囲	商品、非商品、広報媒体に使用可能
対象者	事業者 NPO法人等の市民活動団体
使用料	原則無料



学校給食にも登場！

申請の流れ

1. 使用申請書に必要事項を記入し、新美南吉生誕100年記念事業検討委員会（以下、検討委員会）に提出。
※申請書は検討委員会のHP（<http://www.cac-net.ne.jp/~nankichi/100th/100th.html>）からプリントアウトできます。
2. 検討委員会で具体的内容、使用地域などを審査し、使用許可の是非を検討。
3. 検討委員会から使用許可書及びロゴマークデータ（電子メール）を交付。
4. 制作物等の配布、販売前にサンプルを検討委員会へ提出。

使用の制限及び使用の取り消し等

以下の場合使用できないことがあります。また、使用許可を取り消すこともあります。

- ・使用目的が明確でない場合
- ・特定の政治、思想、宗教等の売名に利用されるおそれがある場合
- ・商品の販売ルートや景品・広告等の配布先が明らかでない場合
- ・法令や公序良俗に反するおそれがある場合
- ・新美南吉顕彰事業の主旨に著しく反すると判断できる場合
- ・その他検討委員会が不適切と認める場合

申請書送付先・問い合わせ

〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1-10-1 新美南吉記念館内
新美南吉生誕100年記念事業検討委員会
TEL：0569-26-4888 FAX：0569-26-4889



縮小使用時に英語表記を抜いた仕様もあります



詳しくは、「ごんのしつぽプロジェクト」ホームページ（<http://www.gon-no-shippo.net/>）をご覧ください。

このプロジェクトでつくられた南吉オリジナルグッズは、すでに十九点。どれも既製品にはない、温かさが魅力です。新美南吉記念館内の喫茶「ごんのお宿」、知多半田駅前のクラシテイ半田内にある半田市観光協会で購入することができます。

半田商工会議所では、新美南吉生誕百年にむかって、南吉に関する土産品を開発したり、イベントを行ったりする観光推進事業「ごんのしつぽプロジェクト」を始めています。

始まっています
生誕百年の取組み